

分かる快感!

Z会ナビ

算数

理科

社会

お題

幕末期の政治改革構想、どこが 変わらなくてどこが新しい?

(東京大学 2013年 日本史)



江戸時代の末、明治維新にいたる間には、さまざまな政治改革の構想が打ち出された。次の文章は、そのもっとも初期の例で、1858年に福井藩士橋本左内が友人に送った手紙の一部を現代語に直したものである。これを読んで、橋本の構想はそれまでの江戸幕府の政治のしくみをどのように変えようとするものだったのか、明治政府が打ち立てた新しい政治のしくみとどこが異なるのか、説明しなさい。

我が公(松平慶永)、水戸老公(徳川斉昭)、薩摩公(島津斉彬)らを国内事務担当の老中、肥前公(鍋島斉正)を外国事務担当の老中にし、それに有能な旗本を添え、そのほか天下に名のとどろいた見識ある人物を、大名の家来や浪人であっても登用して老中たちに付属させれば、いまの情勢でもかなりの変革ができるのではなかろうか。



イラスト・瑞木匠

橋本左内の手紙を読み解く

は親藩、徳川家とゆかりの深い大名は譜代、関ヶ原の戦い前後で家臣となった大名は外様と呼ばれました。幕府にはさまざまな役職がありましたが、役職につけるのは原則、譜代大名か、將軍直属の家臣である旗本とされていました。

ここで、問題文の橋本左内の構想を見てみましょう。老中という幕府の重職に就くべき人物として名前があがっているうち、松平慶永と徳川斉昭は親藩、島津斉彬と鍋島斉正は外様です。また「有能な旗本」のほか「天下に名のとどろいた見識ある人物」は「大名の家来や浪人」でも登用する、と述べられています。従来の江戸幕府のしくみでは、役職につけるのは原則譜代大名か旗本とされており、それ以外の身分の者が取り立てられるのは例外的なことでした。家柄を問わずに有能な武士を登用しようとしていたところに、橋本の構想の新しいさがありました。

・内閣・大審院)。それらの機関の仕事につける人物は、文官任用令や衆議院議員選挙法・貴族院令などで定められていましたが、身分や出自に基づく条件はありませんでした。また、帝国議会が開かれたことで、一般的な国民が政治に参加する道も開かれたのです。

比較してみると、橋本の構想は、あくまでも幕藩体制を基盤にしていたこと、有能な人物を広く登用するというのもあくまでも武士という身分に限った話であったこと、という点で明治政府のしくみとは異なっていたことがわかります。とはいえ、明治政府のしくみも橋本のような先駆者たちが積み重ねてきたさまざまな構想や議論をもとに、作られたものであることを忘れてはいけませんね。(Z会・河原井彩)

家柄を問わず登用

まず、江戸幕府の基本的なしくみから見ていきましょう。江戸幕府を作った徳川家康は、関ヶ原の戦いや大坂の陣を経て、全国の名大(各地方を治める有力な武士)を家臣とすることに成功し、將軍の地位を確立しました。將軍と大名はそれぞれ独自に家臣と領地をもち、將軍(一人名の中で最有力の徳川家)と各地の名大が主従関係にある、という点が特徴です。大名の領地を「藩」と呼ぶことから、この体制を幕藩体制と呼ぶこともあります。

大名は、さらに將軍との関係に基づき三つのグループに分けられました。徳川家一門の大名

さらに身分も問わないように

次に明治政府が作った政治のしくみと橋本の構想の違いを見ていきましょう。

明治政府のしくみの中心は、天皇です。將軍と大名がそれぞれ独自に家臣と領地をもっていた幕藩体制は解体され、天皇を中心に据える政府が全国の土地と人民を管轄する中央集権体制がしかれました。江戸時代までは、ほぼ一つの機関が集中してになっていた、立法・行政・司法の三権も分離され、制限つきではあれ、それぞれの機能をにう機関が設けられました(帝国議会

今回の教訓

以前のものからどのように変わったか、変わっていないのかを整理すると、特徴がわかりやすくなります。明治政府のしくみと現代の政府のしくみの相違点についても整理してみるとよいでしょう。



河原井彩さん 2007年に入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在は中学生・高校生向けの社会科教材を担当。新潟県生まれの埼玉育ち。